

3・5 WTO

3・5・1 ドーカー・ラウンドの動き

1. ドーカー・ラウンド全体の動き

2001年11月から交渉が開始された世界貿易機関(WTO)新ラウンド(ドーカー・ラウンド)は、海運を含むサービス分野等、計8分野での交渉一括合意を目指したもの、膠着状態が続いたことから、2013年12月にインドネシア・バリで開催された第9回WTO閣僚会議において全分野一括合意を断念し、まずは貿易円滑化・農業・開発の3分野での合意を目指す「バリ・パッケージ」の妥結に至った。しかしながら、これまでのところ、貿易円滑化で部分合意に達した以外、サービス分野も含めて大きな成果は得られていない。

2. 海運を含むサービス自由化交渉の動き

海運サービスは過去のWTO交渉において、サービス貿易自由化に係るWTO協定(GATS)適用が合意されていない分野であるため、現在のドーカー・ラウンドにおいてサービス分野の一部としてGATS適用に向けた交渉が行われている。

しかしながら、ドーカー・ラウンドでは参加国・地域が多岐に亘る等の理由により、交渉が難航・長期化しているため、2012年、WTOに加盟する有志国・地域は「新サービス貿易協定(TiSA: Trade in Services Agreement)」策定に向けた交渉を開始、日本も2013年から同交渉に参加(注1)し、海運分野の交渉にも参画している。

TiSA交渉は2016年内の協定合意の可能性を取り沙汰されたものの、一部の分野で交渉が頓挫、2018年3月時点では先の見通しが立たない状況となっている。

注1:新サービス貿易協定交渉参加国・地域(2016年3月現在)

日本、米国、EU、カナダ、豪州、韓国、香港、台湾、パキスタン、ニュージーランド、イスラエル、トルコ、メキシコ、チリ、コロンビア、ペルー、コスタリカ、パナマ、ノルウェー、スイス、アイスランド、リヒテンシュタイン、モーリシャス(合計23カ国・地域(EU各国を含めると50カ国・地域))

3・5・2 WTO 加盟状況

2016年12月現在、WTO加盟国数は164カ国・地域(アジア地域からは23カ国・地域)、加盟交渉中の国は21カ国となっている(注2)。

注2:外務省HP(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/wto/data/kamei.html>)より引用